



## 木もれびの森に咲く貴重種植物

### タカオヒゴタイ (キク科 トウヒレン属)

この花を始めて知ったのは 5 年以上前の城山地区で、貧弱なアザミの一種と考え、あまり印象に残っていませんでした。そのタカオヒゴタイが、木もれびの森のあまり日の差さない林床に、一平米ほどの小群落を作っています。前回は花の時期でしたが、ここでは若葉のころから実の熟すまで見るができます。

同じキク科のアザミはたった 1 個の花でも離れた所からも鮮やかな紅紫色が目に入りますが、タカオヒゴタイは多数の花を付けているにもかかわらず、目に入り難く見過ごされやすい花です。

**特徴** :トウヒレン属の種名には、<トウヒレン>、<ヒゴタイ>、<アザミ>の名が含まれ、またキク科にはヒゴタイ属があつて紛らわしく、混同しないよう注意が必要です。根生葉と下部の葉は長柄がありバイオリンのような形に



なるとありますが、この群落ではバイオリンに良く似ていると思える葉はごくわずかです。茎に翼はなく、長い毛が生え、茎の先端に数個の筒状の紅紫色の花(頭花)をつける。総包は鐘形で長さ 2 cm ほど、クモ毛があり総包片は反り返り先端は尖っています。雌しべの花柱先端が 2 つに割れています(アザミ属は分岐しない)。左の写真は根茎と種子です。この群落は実生と地下茎、どちらの繁殖方法を主としたのでしょうか。(岩田)

## 木もれびの森の薬用植物 (5)

### イノコズチ (ヒユ科 イノコズチ属)

イノコズチは 8-9 月に花が咲き、秋に実をつけるありふれた雑草です。イノコズチ、中国名牛膝(ごしつ)は茎の節が膨らんで、猪子の膝、牛の膝頭に似ていることにそれぞれ由来します。日なたに生えるヒナタイノコズチは毛が多く葉の縁が波打ち、実の付け根にある付属体の長さが 0.3~0.5 mm で、日陰に生えるヒカゲイノコズチは毛が少なく葉の縁が波打たず、実の付け根にある付属体の長さが 0.6~1 mm です。ヒナタイノコズチの根が生薬の牛膝で、牛車腎気丸などの漢方薬に使われています。

さて、四大伝統医学の一つ、インド伝統医学で「クシャーラ・ストラ」と呼ばれる糸があります。これはサンスクリット語



で「アルカリ性の糸」「腐食性の糸」という意味で、アーユルヴェーダにおいて、自然治癒力を利用した痔瘻の治療に用いられてきました。糸にApamarga（ケイノコズチ）を蒸し焼きにした灰、Snuhi（サボテンタイゲキ）の分泌乳液、Haridra（ウコン）の微粉末をしみ込ませたものですが、これらの植物は日本では入手できないので、代わりに国内に自生するヒナタイノコズチとイチジクの未熟果実から得た乳液、トウガラシチンキ剤を用いて純国産の「金沢糸」を金沢大学薬学部御影雅幸教授（当時）が完成させました。痔瘻は手術が難しいのですが、この糸で結んでおくだけで手術せずに治せる治療法として実用化されています。西洋医学は病巣を手術で一気に取った後で治癒を待ちますが、この糸は病巣を取りながら治していきます。かなり時間がかかり、楽にたちどころに治るというものではありませんが、伝統医学を見直すと、身近な植物も思いがけない力を持っていることがあります。（川村）

## 木もれびの森の樹木

### 鳥が運んだ樹木たち

我が家の小さな庭にも突如芽を出した樹木があります。マンリョウ・エノキ・ヒサカキ・クマノミズキ・センダン・キウイフルーツなどです。中でもマンリョウはあちこちにたくさん芽をだします。

森の中で正月が過ぎても赤い実をつけているマンリョウを目にします。マンリョウを好んで食べるのは、ヒヨドリやツグミなどです。11月には実は熟していると思われそうですが厳冬を過ぎてから食べるのは、何か訳があるのでしょうか？良く熟して、おいしくなるのかしら。

キウイフルーツは家庭で簡単に栽培できると人気が出て庭に植栽した方が多くいました。しかし流通している果実のようにおいしい実をつけさせるのは難しく、そのまま放置してしまった棚の実を鳥が食べ森にタネを落とします。

写真(左)は森におとされたタネが畑地灌漑用水路に伸びてきているキウイの苗です(赤い矢印)。



キウイフルーツ マタタビ科



ミズキ ミズキ科

今春は**キアシドクガ**が大発生しました。ミズキの新芽が好きな幼虫は新芽をことごとく食べ尽くしました。そのために花も実もつけることが出来ませんでした。ミズキの実はヒヨドリ・ツグミ類・ヒタキ類・ムクドリの仲間たちが好んで食べます。今年はミズキのかわりに何を食べていたのでしょうか。幸いにミズキより1か月後に花を付けるクマノミズキは実をつけています。東電のNo.15の鉄塔の横に一行にミズキが生えている場所があります。見上げると電線があります。電線の上でヒヨドリが並んでミズキの実を食べている姿を想像すると思わず微笑んでしまいます。（高橋）